富士市富士山火山防災マップ

作成した目的

◆このマップは、富士山の噴火に備えて、皆さんが自らの安全を確保するために、どのような行動をとればよいかを知っていただくために作成しました。
◆このマップは、富士山が噴火した場合に、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及ぶと想定される範囲を全て重ねて描いたものであり、全ての方向に同時に発生することを意味するものではありません。

噴火警戒レベルに応じた避難の原則

噴火警戒レベルとは、火山活動の状況に応じて「警戒に必要な範囲」と防災機関や住民等の「とるべき防災対応」をレベル１（活火山であることに留意）からレベル５（避難）までの５段階に区分した指標です。「富士山の火山活動に関する情報（裏面参照）」として気象庁が発表します。
噴火警戒レベルに応じて、避難対象エリアごと段階的に避難に関する情報を発令します。各避難対象エリアの対象町内会（区）は「避難の対象となる地域（P2･3）」を確認ください。
避難する際は、原則、自家用車等で、各自避難対象エリア外（親戚・知人宅等）に避難先を確保します。ただし、移動手段が確保できない方や、エリア外に避難先が確保できない方は、市が指定する避難所へ避難することができます。

火山情報収集の方法

同報無線を使った情報収集

噴火警報（特別警報）・火口周辺警報等が発表された場合、同報無線放送を行います。しかし、屋内にいると聞き取りにくくなることが想定されます。放送内容を自宅で聞くことができる「富士市防災ラジオ」の準備や携帯電話等で受信できる「富士市メールサービス（同報無線情報）」の登録をしておきましょう。

富士市防災ラジオ

テレビだけでは、停電が発生した場合に情報を集められなくなるおそれがあります。富士市防災ラジオ等と予備の乾電池も準備しておきましょう。

同報無線の放送内容を聞くことができるほかに、一般のラジオ放送も聞くことができます。

Radio 84.4fm

ラジオエフ（ＦＭ84.4）では、富士・富士宮地域に密着した災害情報を入手できます。

富士市メールサービス（同報無線情報）

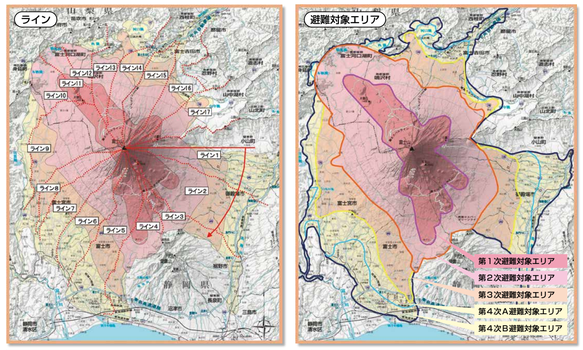
同報無線の放送内容をメールで受信することができます。右記のアドレスに件名や内容を入れずにメールを送信し、送られてくるメールに従って登録作業をしてください。

☆登録用メールアドレス　t-fuji@sg-m.jp

※迷惑メールフィルターをかけている場合、ドメイン名「city.fuji.shizuoka.jp」からのメール受信をあらかじめ許可してください（@は付けずに登録してください）。

お問い合わせ先
富士市役所防災危機管理課
TEL：0545-55-2715
FAX：0545-51-2040
E-ﾒｰﾙ：bousai@div.city.fuji.shizuoka.jp

溶岩流に伴う段階的な避難

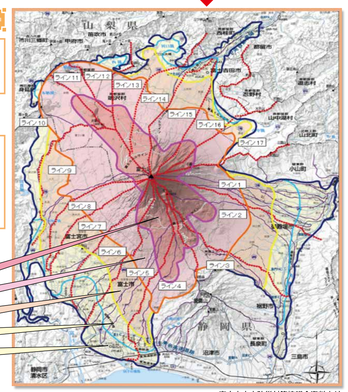


溶岩の流れ方を谷筋や尾根に沿って算出した区域　＋　避難が必要な範囲を火口から段階的に区分したもの

段階的な避難の実施

「噴火前」は、火口及び噴火現象の特定が難しいため、噴火警戒レベルに基づき、第１・２次避難対象エリアの町内会（区）は全方位で避難します。

「噴火後」は、火口の位置、溶岩流の流下状況に応じて段階的に第３・４次避難対象エリアの町内会（区）は避難します。ただし、溶岩流のラインや噴出量、流下速度により避難範囲を特定するため、第３・４次避難対象エリアにお住まいの全ての方が避難するわけではありません。



富士山火山防災対策協議会資料より

災害の発生可能性マップ

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の１地勢図及び数値地図50mメッシュ（標高）を使用したものである。（承認番号　平16総使、第140号）

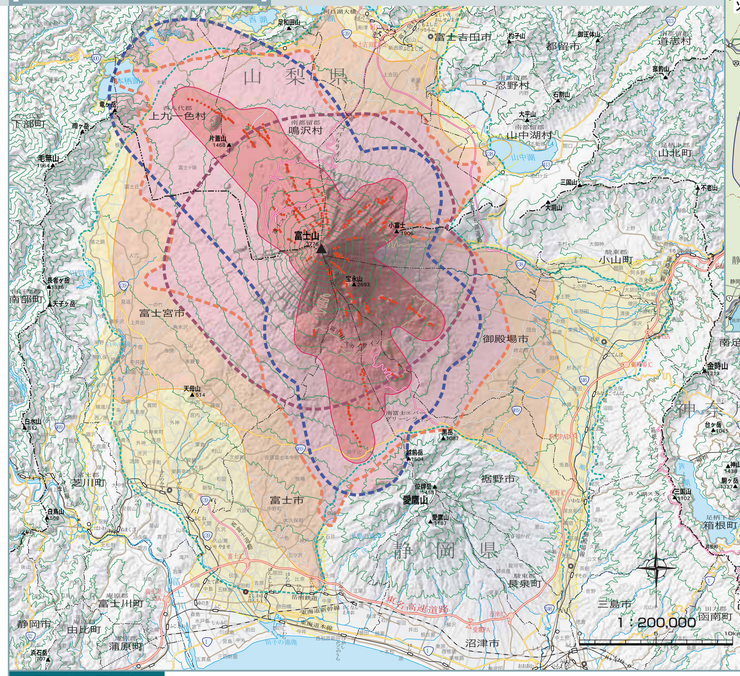
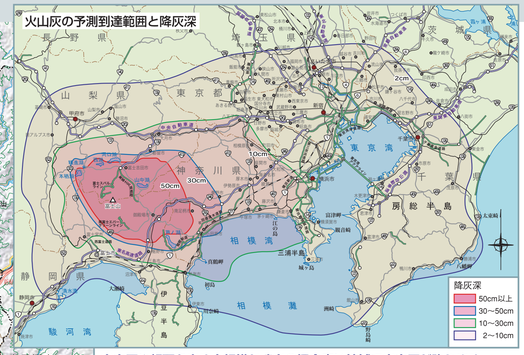


図　の　見　方

この図は富士山が噴火した場合に、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及ぶと想定される範囲を全て重ねて描いたものです。全ての方向に同時に発生することを意味するものではありません。

- 火口ができる可能性の高い範囲（この範囲のすべてでなくどこかに火口ができます。）
- 過去に火口が出来た箇所（平成14年9月末日時点での調査による）
- 噴火しそうな時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲を示しています。（噴火した場合に、下の3つのどれかに当てはまり、すぐに危険になる範囲です。）
- 火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲
- 火口から噴出した石がたくさん落ちてくる範囲（この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。）
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲（3時間程度を想定）
- すぐに危険にはなりませんが、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に時間のかかる人（お年寄りや入院患者等）早めに避難して下さい。（溶岩が流れ続けた場合に、１日程度で到達する範囲を示しています。）
- すぐに危険にはなりませんが、たいへん大きな噴火の場合に火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される情報に注意してください。（溶岩が流れ続けた場合に、数日間以上で流れてる範囲を示しています。）
- 雪が積もっている時に噴火しそうになった場合に、沢や川には近寄らないようにする必要がある範囲です。（積もった雪が火砕流により溶かされた場合、発生した泥流が沢や川沿いであふれるおそれのある範囲を示しています。）

火山灰の予測到達範囲と降灰深



火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合広い地域に火山灰が降ります
季節によって風向きが変わるため、火山灰の到達範囲は変わります。この図はすべての季節を重ねて最大を描いたものです。

降灰があったら…
●灰を吸わないようにするためマスクやゴーグルを着用しましょう。
●火山灰だけでなく小石が降ってくることがあるので、やむを得ず外に出る時はヘルメットや防災ずきんをかぶりましょう。
●家は窓を閉めて建物を密閉します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
●車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリップしやすくなります。また、雨が降っている上に灰が固まりワイパーが使えず危険です。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JR など鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。

宝永噴火（1707）時の実績の降灰分布

避難の対象となる地域

避難対象地域は、災害の発生可能性マップ（P1）に示された溶岩流、噴石、火砕流、融雪型火山泥流の影響が想定される範囲を基に区分しています。火山活動の状況によって避難対象エリアごとに避難に関する情報を発令します。

凡例	区分	予測される影響	地区	避難対象町内会（区）	避難所
	第１次避難対象エリア	火口ができる可能性がある	吉永北	勢子辻	富士川体育館
	第２次避難対象エリア	溶岩流が３時間以内で到達する可能性がある噴石、火砕流が到達する可能性がある	大淵	吉原富士本中町、大淵町３	富士川体育館
			吉永北	桑崎町、陽光台東	
	第３次避難対象エリア	溶岩流が３時間～24時間程度で到達する可能性がある	吉永北	間門町、鵜無ケ淵町１、石井町	富士南小学校
			神戸	今宮	
			吉永北	鵜無ケ淵町２、陽光台西・南	富士南中学校
			青葉台	一色	
			大淵	大久保町、大淵町１・２	富士川第一中学校
			大淵	八王子町１・２	富士川第一小学校
			大淵	中野町１・２	岩松小学校
			大淵	城山町	田子浦中学校
			大淵	八王子本町、落合町	富士川第二小学校
			大淵	大富町、次郎長町	富士川第二中学校
			大淵	吉原富士本西町、希望ヶ丘	富士第二小学校
			青葉台	若松町１、高山	
			神戸	神戸１・２	富士中学校
			富士見台	富士見台１、富士見台２南	富士第一小学校
			原田	三ツ沢町１・２・３	
			富士見台	富士見台２北、富士見台３	田子浦小学校
			富士見台	富士見台４東・４西、富士見台５	元吉原中学校
			富士見台	富士見台６・７・８	吉原小学校
			吉永	富士岡入町、富士岡町１・２	岩松北小学校
			須津	中里１	
			吉永	富士岡町３、東比奈町１・２	富士中央小学校
			吉永	東比奈町３、中比奈町３	元吉原小学校
			原田	原田町４	
			青葉台	若松町３	岩松中学校
	第４次Ａ避難対象エリア	24時間～１週間程度で溶岩が到達する可能性がある（噴火警戒レベル５の状態から、さらに噴火が拡大した場合、避難する可能性がある）	須津	中里町２・３・４、中里寿町、中里曙町	市外避難（県内中西部への避難）
			吉永	富士岡本花守町、富士岡渋脇町、富士岡花守町、中比奈町１・２、西比奈町１・２・３	
			原田	宇東川町１・２・３、宇東川本町、西滝川町、南滝川町、東滝川町、北滝川町、原田町１・２・３、原田本町、吉原中島町１・２	

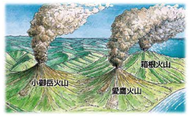
凡例	区分	予測される影響	地区	避難対象町内会（区）	
	第４次Ａ避難対象エリア	24時間～１週間程度で溶岩が到達する可能性がある（噴火警戒レベル５の状態から、さらに噴火が拡大した場合、避難する可能性がある）	青葉台	荻の原、木の宮町、東木の宮、西木の宮町、茶の木平、青葉台南	市外避難（県内中西部への避難）
			吉原	東国久保、西国久保	
			伝法	伝法町１・２	
			今泉	吹上、田宿、御殿、寺市場、市場、一の宮町１・２・３、立小路、栄町、富士見町、水の上、仲町、泉町、鍛治町１・２・３、上和田町、吉原緑ヶ丘、新橋、駿河台１・２・３・４、新富士見町	
			広見	源太坂、広見町１・２・３・４・５・６・７・８・９、百合ヶ丘、桜ヶ丘町、美原町、石坂町１・２・３・４、久保町、三ツ倉南町、若松町２	
			大淵	片倉、穴原１・２、大嶺町、境町、三ツ倉町	
			丘	厚原北１・２、伴木、末広町、厚原東３、伴木北	
			鷹岡	久沢北、入山瀬天王町、入山瀬久保町、入山瀬東・西	
			天間	天間南、天間川坂、天間田代、天間北１・２天間東	
	第４次Ｂ避難対象エリア	１週間～４０日程度で溶岩が到達する可能性がある（噴火警戒レベル５の状態から、さらに噴火が拡大した場合、避難する可能性がある）	元吉原	鈴川町３・４、今井本町・東町・毘沙門町、大野町、檜町、田中町、西田中町、鈴川本町	市外避難（県内中西部への避難）
			須津	中里新富町、中里八幡町、川尻町１・２	
			吉原	東本通１・２・３、宮町、吉原本町１・２・３・４、西本通り、伝馬町、西仲町、新追町、青島、津田、荒田島１・２、八代町、新通り、緑町、南町、依田原１・２・３・４、春日町、大和町、幸町、昭和通り、住吉町、日吉町１・２・３、錦町１、永田町、新青島町、エンゼル町、中央町壱番館、弥生町、高島	
			伝法	宮川町、宮の上、三日市、長者町、伝法町３、中桁、上田端、田端町、吉原上中町、中村町、千代田町、瓜島、日乃出町、永田町壱番館、サーパス永田町、富士日之出町	
			今泉	北仲町、和田町１、和田町２、依田橋、南仲町	
			富士駅北	本市場１・２・３・４、国久、塔の木、川原宿、藤岡、塔の木２、柚木、平垣町２・３、銀座町、平垣八幡町、夢原１・２・３・４、平垣北町、十兵衛北、千寿町、松岡東	
			田子浦	前田	
			岩松	浦町	
			鷹岡	厚原西、久沢東・西・南、鷹岡本町１・２・３	
			丘	片宿、厚原中、厚原南、厚原東１・２	
			岩松北	四ッ家、東田、旭町、滝戸、湯沢平１・２	
			富士北	青葉町、浅間町、本市場新田、松本、富士中島上、富士中島下、中島新道町、くすのき町	

富士山は活火山

富士山のおいたち

富士山は、西暦1707年に宝永火口から噴火した後、現在まで静かな状態が続いています。しかし、地下深くでは今もマグマが活動を続けている活火山です。富士山では過去にさまざまな規模や種類の噴火が起きており、火口も山頂に限らず、山腹にも数多く分布しています。ただし、次にどのくらいの規模で、どのような種類の噴火が、どこを火口にして起きるかはわかっていません。

(1) 小御岳火山の時代



およそ20～10万年前、現在の富士山のやや北側に、小御岳火山が誕生しました。周辺の愛鷹山や箱根山などの火山も噴火し、大量の噴出物が地表に積もりました。

(2) 古富士火山の時代

10万年ほど前に、小御岳火山の中腹で古富士火山が噴煙を上げはじめました。古富士火山は噴火をくりかえしながら成長し、さらに高くそびえる火山に成長していきました。

(3) 新富士火山の時代

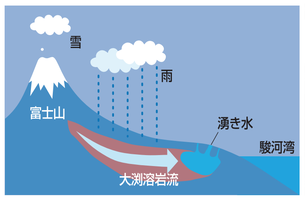
およそ１万年前から現在の富士火山（新富士火山）が成長を始めました。その後も山体崩壊が起きたことがありますが、度重なる噴火が崩壊の傷跡をおおい、美しい円錐形をした現在の富士山がつくられました。

富士山噴火の主な記録

西暦	活動の種類	古事記の記載事項（抜粋）
864年 ～ 866年	貞観噴火	富士山の北西斜面から大量の溶岩を流す噴火が起こりました。流れ出た溶岩は当時あった大きな湖（せのうみ）を埋めて西湖と精進湖に分断したほか、広範囲に斜面を流れ下りました。これは青木ヶ原溶岩と呼ばれ、現在は樹海が広がっています。
1707年	宝永噴火	宝永地震の49日後から２週間にわたり大量の火山灰等を噴出しました。火山灰の堆積により山麓では家屋や耕地に大きな被害があり、降雨による洪水や土砂災害も発生しました。

火山特有の豊富な地下水

富士山の麓からは、大量の地下水が湧き出しています。このような湧水池の多くが今泉地区、原田地区、吉永地区など溶岩の末端付近にあります。溶岩は空洞が多いため、内部に大量の水を蓄えたり、透過させたりすることができます。富士山に降った雨や雪は地下水となり、溶岩の内部をつたって湧水池で湧いています。



比奈「湧水公園」医王寺の門前

富士山で想定される現象

小さな噴石・火山灰

噴火により噴出した小さな固形物のうち直径2mm 以上のものを小さな噴石（火山れき）直径2mm 以下のものを火山灰といい、粒径が小さいほど火口から遠くまで風に流されて降下します。小さな噴石は、火口から10km以上遠方まで風に流されて降下する場合もありますが、噴出してから地面に降下するまでに数分～十数分かかることから、火山の風下側で爆発的噴火に気付いたら屋内等に退避することで小さな噴石から身を守ることができます。火山灰は、時には数十kmから数百km以上運ばれて広域に降下・堆積し、農作物の被害、交通麻痺、家屋倒壊、航空機のエンジントラブルなど広く社会生活に深刻な影響を及ぼします。

三宅島の降灰（平成12年7月16日）

大きな噴石

爆発的な噴火によって火口から吹き飛ばされる直径約50cm以上の大きな岩石等は、風の影響を受けずに火口から弾道を描いて飛散して短時間で落下し、建物の屋根を打ち破るほどの破壊力を持っています。被害は火口周辺の概ね２～４km以内に限られますが、過去、大きな噴石の飛散で登山者等が死傷したり建造物が破壊される災害が発生しており、噴火警報等を活用した事前の入山規制や避難が必要です。

浅間山の噴石（平成17年8月4日）

火砕流

高温の火山灰や岩塊、空気や水蒸気が一体となって急速に山体を流下する現象です。規模の大きな噴煙柱や溶岩ドームの崩壊などにより発生します。大規模な場合は地形の起伏にかかわらず広範囲に広がり、通過域を焼失、埋没させ、破壊力が大きく極めて恐ろしい火山現象です。流下速度は時速数十kmから百数十km、温度は数百℃にも達します。火砕流から身を守ることは不可能で、噴火警報等を活用した事前の避難が必要です。

雲仙普賢岳の火砕流（平成6年6月24日）

溶岩流

マグマが火口から噴出して高温の液体のまま地表を流れ下るものです。通過域の建物、道路、農耕地、森林、集落を焼失、埋没させて完全に不毛の地と化します。地形や溶岩の温度・組成にもよりますが、流下速度は比較的遅く基本的に人の足による避難が可能です。

伊豆大島噴火の溶岩流（昭和61年11月19日）

噴火に伴う堆積物による土石流

火山噴火により噴出された岩石や火山灰が堆積しているところに大雨が降ると土石流や泥流が発生しやすくなります。火山灰が積もったところでは、数ミリ程度の雨でも発生することがあります。これらの土石流や泥流は、高速で斜面を流れ下り、下流に大きな被害をもたらします。火山噴火後の土石流や泥流のおそれがある場合、国土交通省の緊急調査に基づく「土砂災害緊急情報」を踏まえ、気象台は、気象情報（予想雨量の情報）を発表します。噴火後に雨が予想されている時は、川の近くや谷の出口に近づかないようにしましょう。

土石流の被害を受けた家屋

融雪型火山泥流

積雪期の火山において噴火に伴う火砕流等の熱によって斜面の雪が融かされて大量の水が発生し、周辺の土砂や岩石を巻き込みながら高速で流下する現象です。流下速度は時速 60km を超えることもあり、谷筋や沢沿いをはるか遠方まで一気に流下し、広範囲の建物、道路、農耕地が破壊され理没する等、大規模な災害を引き起こしやすい火山現象です。積雪期の噴火時等には融雪型火山泥流の発生を確認する前にあらかじめ避難が必要です。

十勝岳の融雪型火山泥流（大正15年5月24日）

火山ガス

火山地域ではマグマに溶けている水蒸気や二酸化炭素、二酸化硫黄、硫化水素などの様々な成分が、気体となって放出されます。ガスの成分によっては人体に悪影響を及ぼし、過去に死亡事故も発生しています。2000年からの三宅島の活動では、多量の火山ガス放出による居住地域への影響が続いたため、住民は４年半におよぶ長期の避難生活を強いられました。

火山ガスを大量に含む三宅島の噴煙（平成14年1月）

水蒸気爆発

水蒸気爆発は、マグマからの熱により熱せられた地下水が高温高圧の水蒸気となって爆発的に噴出する現象です。マグマが直接関与しないため、噴出物の中にマグマ物質が含まれていない特徴があります。

御嶽山水蒸気爆発（平成26年9月27日）